

業務可視化・改善シリーズ

D X 事例 3 選

＝ コンサルタントのポイント解説付き ＝





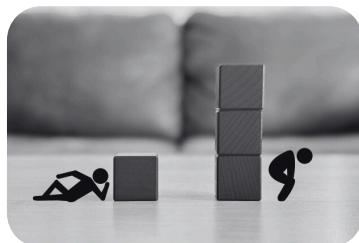
DX事例① 機械（東証プライム上場）

プロジェクト管理をDX。進捗管理の効率化とリスクマネジメントの強化を実現。

事例の概要

大規模プロジェクトを推進するこちらの企業様は、プロジェクト管理の効率化が大きな課題でした。独自の管理手法を採用していたため、必要な文書の所在が不明確であり、「膨大な文書の中から必要な情報を探し出す」という難題に度々直面していました。また、プロジェクトを進める上でのリソース、コスト、納期の制約の中で、プロジェクト管理に必要な時間が確保できず、新たな人材の育成も難しい状況が続いていました。

状況を改善するために、プロジェクト管理のデジタル化を推進。業務フロー図を利用してプロジェクト管理のプロセスを可視化し、必要な資料や情報を直感的にアクセスできるデジタルツールを導入。結果、必要な文書をすぐに取り出すことができるようになったほか、人材育成にも着手、そしてプロジェクトの進行も効率化を図ることができました。



特定の人に偏っている…



必要な情報が見つからない…

解決したい課題



属人的な業務、人材育成も難航

プロジェクトマネジメントが個々のプロジェクトマネージャーの経験や知識に大きく依存しており、これにより知識や手法のバラツキが発生。結果、組織全体の一貫性と効率の低下を招いていました。さらにこの属人化の問題は、新しいプロジェクトマネージャーの教育や育成、知識伝承の妨げとなっていました。



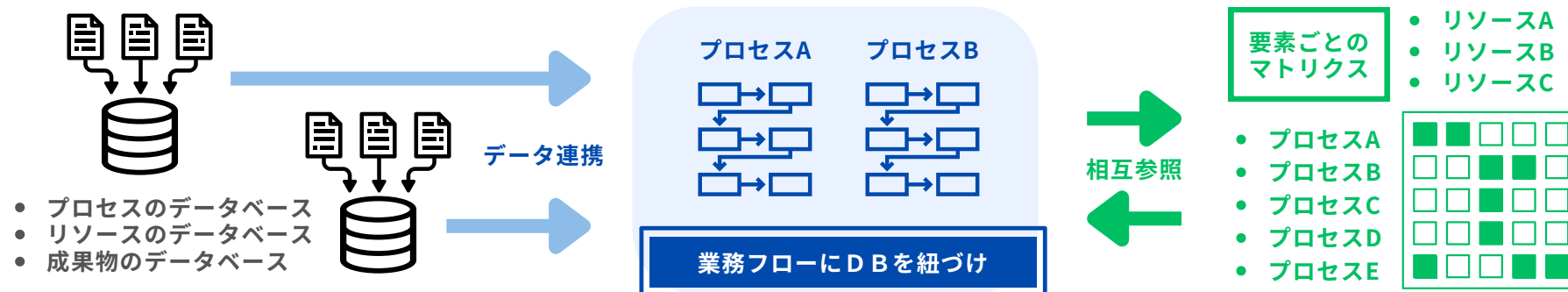
膨大な紙文書、情報を探すのが大変

プロジェクト推進に関係する多くの重要文書が紙ベースで、しかもプロジェクトごとに別々に管理されており、新たなプロジェクトを立ち上げる際、必要な情報を探し出すのが困難でした。これはプロジェクトの進捗管理や資料のアップデートを困難にし、プロジェクトの進行遅延の原因にも繋がっていました。



上流工程のリスク管理が不十分

大規模プロジェクトであるほど、上流工程でのリスク管理が重要になりますが、上記の過去の情報を探し出すことができない問題、属人的な問題から、リスクを事前に把握することができず、プロジェクト進行中に大きな問題となる可能性がありました。



改善効果

✓ 知識のデジタル共有と新人材育成の加速

業務フロー図を用いたDXツールの導入で、プロジェクト管理のプロセスを標準化し、ベテランの知見に依存する状況から脱却。これにより、知識や手法のバラツキが解消され、組織全体の効率化を実現。新しいプロジェクトマネージャーへの教育や育成も容易になり、知識伝承の障壁を低減させることに成功しました。

✓ 文書管理・情報アクセスの迅速化

紙で管理されていた重要文書をデジタル化し、業務フローに紐づけて連携させることで、必要な情報を迅速に取り出すことができました。プロジェクトの進捗管理や資料のアップデートが容易になり、プロジェクト進行の遅れが軽減されました。

✓ リスクの早期発見と影響の低減

上流工程でのリスク管理がデジタルツールを通じて強化。リスクの早期発見と対策が可能となり、大規模プロジェクトにおける後発的な問題を未然に防ぐことができました。

解説

会社標準+個別対応+個人のナレッジを組み合わせたハイブリッド品質管理の実現

暗黙知の形式知化とデジタル化

このお客様の課題はナレッジの共有とデジタル化でした。今回は「プロジェクト進行手法・ノウハウ」を、フローチャート形式で表現、テンプレート化することで形式知化しています。また、システム内で職責に対する工程や成果物の定義を行うことで、担当者が局面ごとに必要な情報を収集し、漏れなく対応できる環境を実現しました。私たちの得意とする「ナレッジを可視化し共有する仕組みづくり」が効果を発揮できた事例です。

会社として守ること+状況に応じた手順の取捨選択の両立

本事例では品質管理のために守るべきことと、状況に応じた手順の取捨選択を両立することがポイントでした。このためPMBOKを基準とした工程（プロセス）と成果物を会社標準として定義し、柔軟に状況に応じた工程をBPMNフローチャートでワークフロー設計、システムで工程管理する方法を実現しました。各工程で決められた成果物を提出しないと次に進めないようにすることで、品質管理と進捗管理を両立しています。

株式会社サン・プランニング・システムズ
デジタル・トランスフォーメーションユニット
ビジネスディベロップメント部

副部長 鈴木 裕





DX事例② 電気機器（東証プライム上場）

業務プロセスの可視化&自動化によって 業務効率の向上と人的ミス的大幅減少へ

事例の概要

業務の効率化と従業員のモチベーション向上を目的として、この企業様は業務プロセスのデジタルトランスフォーメーションに着手しました。この改革では、専門ツールを用いた業務の可視化と自動化がポイントで、日々の業務の無駄を明確に削減し、従業員の創造性を引き出すことが狙いです。

プロジェクトでは、業務プロセスの詳細な分析を行い、専門ツールを活用して業務を最適化。これにより、人的ミスが大幅に減少し、業務のスピードアップが実現しました。結果として、業務全体の生産性が向上し、従業員がより付加価値の高い、意義ある作業に集中できる環境にシフト。従業員の業務に対する充実感と満足度が大きく向上しました。



ルーティンワークばかり…



ミスを起こさないか不安…

解決したい課題

✓ 煩雑な業務とルーティンワークの山

現場の職場環境を見渡すと、業務の煩雑さやマンネリ化が大きな課題として浮かび上がっていました。特に日常の業務がルーティンワークに陥りがちで、新しいアイデアや改善提案が生まれにくい状態になっていました。

従業員のモチベーションの低下や創造性の欠如は、組織全体のイノベーションの停滞にもつながる恐れがあります。業務の効率化や改善が困難となることで、組織の競争力の低下にも繋がる可能性を危惧していました。

✓ ミスを起こしてはいけないプレッシャー

現場の業務ではミスが許されない厳しい環境が定着しており、これが従業員にとって大きなプレッシャーとなっていました。ミスを避けるための二重チェック、三重チェックといった、過剰な多段階の確認作業は、業務速度低下を招き業務効率も悪化。

さらに効率面だけでなく、このようなプレッシャーの強い職場環境では、従業員の心理的なストレスを増大させ、職場の雰囲気や健康にも悪影響を及ぼすかもしれないと懸念されていました。



改善効果

✓ 業務プロセスの可視化と最適化で改善

業務の煩雑さとマンネリ化を解消するために、専門ツールを導入して業務プロセスを可視化。続けて、業務量を可視化し、あるべき姿の業務をモデリング。そしてプロセスマイニング分析を行うことで、各業務の詳細が明らかになり、無駄や非効率が一目で確認できるように。結果、具体的な改善点が浮き彫りになり、プロセスの再設計やデジタル化の方向性を具体的に検討できるようになったほか、ルーティンワークからの脱却と効率的な業務運営も実現。従業員の創造性とモチベーションも向上しました。

✓ プロセスの自動化とワークフロー開発

ミスを許されないプレッシャーに対処するため、RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）、AI技術、BPMS（ビジネスプロセスマネジメントシステム）を導入して業務プロセスを自動化。

これにより、繰り返し行われる単純作業やエラーの可能性が高いタスクをシステムが担うことで、人的ミスを大幅に減少。また、自動化により業務のスピードが向上し、従業員はより創造的な業務や付加価値の高い業務に集中できるようになりました。結果として、業務の精度が向上し、従業員の心理的負担が軽減され、職場全体の雰囲気と生産性が改善されています。

解説

従業員のロイヤリティ向上を実現する「プロセスDX」

D（デジタル導入）で、X（モチベーション向上）を実現する

オフィスワークにおいて「面倒、マンネリ、ミスできない」という問題を解消したい、そのためにデジタルを活用する。ただし単純なデジタル導入ではなく、業務プロセスそのものを最適化することで「面倒、マンネリ、ミスできない」を根底から解決するというのが最もお伝えしたいポイントです。本事例では従業員が自らプロセスを最適化し、改革し続ける体質づくりの方法と成果を紹介しています。

プロセスDXの成果

デジタル活用というとAIやRPA等に焦点があたりがちですが、デジタルは手段でしかありません。継続的に問題を解決し、業務プロセスを最適化し続ける仕組みが重要です。本事例ではプロセスDXを実現するための体制構築や、従業員自らが気持ちよく働くために改善活動を行う課程が紹介されています。私たちの得意とする「継続的な改善活動基盤の構築」がお客様のプロセスDXを実現しています。

株式会社サン・プランニング・システムズ
デジタル・トランスフォーメーションユニット
ビジネスディベロップメント部

副部長 鈴木 裕





DX事例③ 輸送用機器（東証プライム上場）

業務プロセス改革で 設計エンジニアの負担を大幅軽減

事例の概要

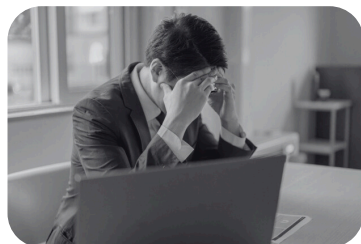
生産品目や顧客数の増加に伴い、求められるアウトプットの量も増えていく一方で、設計部門のエンジニアの数は変わらなかったため、日に日に業務が激務化。さらに、業務プロセスも不透明で、社内外の調整業務や付帯作業までエンジニアがマルチにこなしている状況で、本来主業務である設計作業に集中できず、さらにリソース不足に陥りました。

まずは業務実態の把握が必要だと、オフィスツールで業務の可視化にチャレンジするも、逆に膨大な時間を取られることに。

この大きな問題を解決するには、新しいアプローチが必要と判断し、DX化の推進のための新しい専門ツールの導入。結果、業務の透明化が進み、エンジニアは重い負担から解放され、主業務である設計業務に集中できる環境が整いました。



リソース不足で激務環境に…



主業務に集中できない…

解決したい課題

✓ リソース不足による激務化

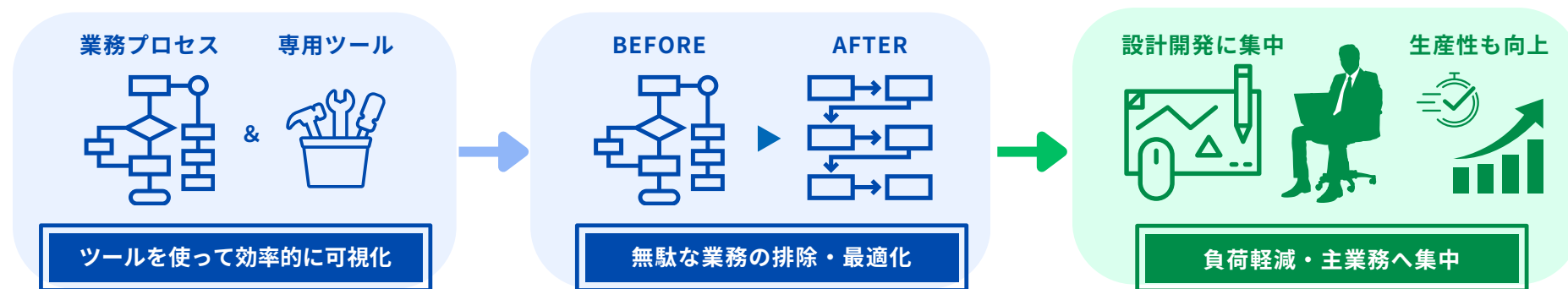
設計部門のエンジニアが増加していないにもかかわらず、図面や帳票などのアウトプットが10年前と比べて約1.7倍に増加したことにより、設計部門が極めて激務になっていました。

✓ 主業務に集中できない環境

業務プロセスの可視化が不十分であったため、主業務以外の社内外の調整業務や各種付帯作業まで増加し、エンジニアが本来の設計業務に注力できない環境が続いていました。

✓ 非効率的な業務可視化

オフィスツールを用いた業務プロセスの可視化に挑戦したのですが、その体裁を直すことに膨大な時間がとられてしまい、可視化の効率が極めて低く、改善まで至るのが難しい状況でした。



改善効果

✓ 効率化による業務負担の軽減

新たな可視化ツールの導入により、設計部門の業務プロセスが効率的に管理されるようになりました。これによって、図面や帳票が増加したにもかかわらず、エンジニアの作業負担は軽減され、激務化の問題が大幅に解消されました。

✓ 主業務への集中できるように

業務プロセスの透明性が向上し、不要な調整業務や付帯作業が削減された結果、エンジニアは本来の設計業務により集中できる環境に改善。作業効率を大幅に向上させる効果をもたらしました。

✓ 業務可視化のシステム化と業務最適化

専用の可視化ツールを活用することで、業務プロセスの管理と更新をシステム化。エンジニアが本来の設計作業に集中できる時間が増え、業務効率も向上。プロジェクト全体の時間管理と生産性が大幅に改善されました。

解説

フローチャートは業務改善の合意形成に必要な「共通言語」

同じ目線で会話できるから「共通言語」

業務改善で最も時間がかかる作業は業務可視化（現状業務分析）です。また、業務改善で最も重要な事項は関係者間の合意形成です。経験上、業務改善で挫折するケースはこれら2点のいずれかが原因となっていることが多いです。逆に言えば、これらの問題を解決する方法があれば業務改善は成功するとも言えます。本事例では業務改善の共通言語であるフローチャートを、効率よく作成し、合意形成に役立てる方法を紹介しています。

ワンストップで合意形成を実現する

iGrafxは業務改善の専門ツールです。本事例では他ツールと比較して3倍の生産性を発揮し、現場担当者から役員までワンストップで合意形成を実現するiGrafxの効果が紹介されています。私たちは「お客様が自ら業務改善を行い、成果を実現する」ソリューションを得意としています。お気軽にお問い合わせいただけますと幸いです。

株式会社サン・プランニング・システムズ
デジタル・トランスフォーメーションユニット
ビジネスディベロップメント部

副部長 鈴木 裕



SOLUTION

3社が選んだDXツールは？

iGrafX[®]

アイグラフィックス



今回ご紹介した3社が選んだDX支援ツールは世界で10万ライセンス以上利用されている専用ツール「iGrafX/アイグラフィックス」でした。

業務可視化



高速描画エンジンを搭載。圧倒的な生産性と、直感的な操作性が、世界の多くの企業様から、長年支持されています。

仮説検証

シミュレーション



もし、業務のこの部分を変えて仕事を回したら…
そんな仮説を業務シミュレーション機能を使って
何度でも検証できます。

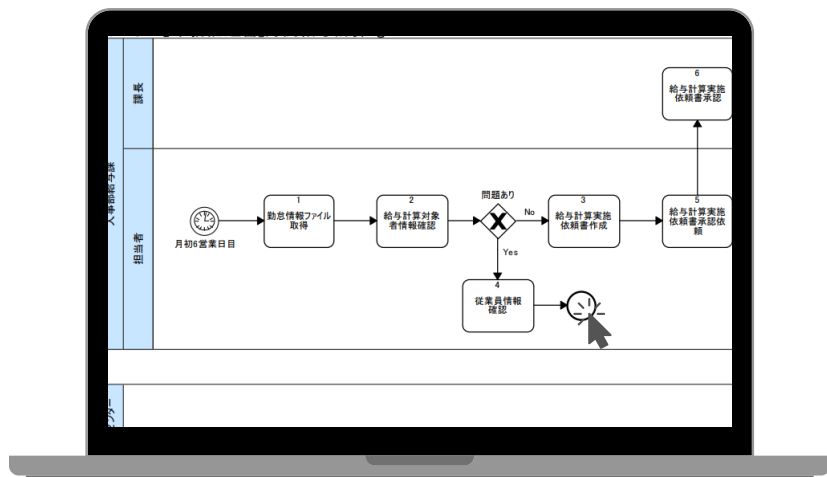
業務改善

プロセスマイニング



想定した改善案通りに業務が回っているのか、
プロセスマイニング機能で自動収集。差異を
把握し、効果的な改善活動が可能となります。

高速作図エンジン搭載



システムから収集したログをプロセスマイニングにかけることで、どのように業務が流れているのか、その割合やボトルネックとなっている箇所をリアルタイムで確認。想定していたプロセスの差異を把握できるので、実体に沿った効果的な業務改善やシステムの改修につなげることができます。

- ✔ 一度使ったらやめられない圧倒的なスピード感
- ✔ 「ヒアリングしたその場で描ける」がコンセプト
- ✔ たった1日の研修で理解できる直感操作

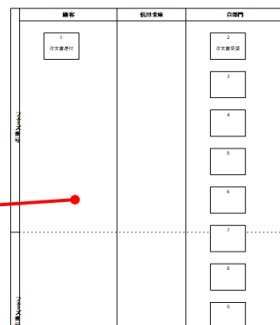
RPR+筆跡記述書（自動作図用） -取込シート-

開催日時	開催の名称	会場	人数	作業の名称 (作業名)	最終的に何をしていますか？ (目的)	進捗？ (作業完了)
2019-03-01-01	作業計画	福岡	1	作業計画	作業計画の立案を完了する	
2019-03-01-02	作業計画	福岡	2	作業立案	作業計画の立案を完了する	
2019-03-01-03	作業計画	福岡	4			
2019-03-01-04	作業計画	福岡	6			
2019-03-01-05	作業計画	福岡	8			
2019-03-01-06	作業計画	福岡	8			
2019-03-01-07	作業計画	福岡	8			
2019-03-01-08	作業計画	福岡	10			

業務の処理手順をExcelシートに列挙し、それを読み込めば、業務フローチャートの基本図形を自動作図できます。

自動作図

自動作図後は、接続線を引きながら、業務実施手順がフローチャートに盛り込まれているか確認します。



EXCELから自動的に作図

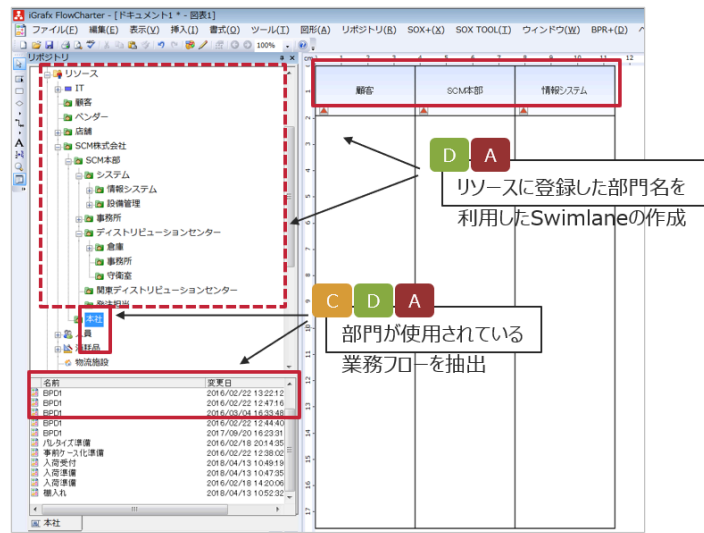
業務の手順や詳細情報などを所定のExcelシートに記入し、iGrafxにインポートすると、自動的にシートを解析して図形を配置。最後に接続線を引いてあげるだけで、業務フローチャートが完成します。現場に使い慣れたExcelを配布して、入力されたものを回収するだけで、業務の可視化プロジェクトを効率的に進めることができます。

- ✓ Excelからのインポート機能搭載で自動作図
- ✓ シートに記載された部門名も自動で正しく配置
- ✓ 最後に接続線で結んだら業務フローが完成します

部門名も一括置換

組織変更などで部門名が変わった場合、今までは全てのファイル、全てのシートの部門名を1つ1つ変更する必要があり、大きな組織であればあるほど、その修正作業は大変なものでした。iGrafxなら、もし組織の名称が変更となっても、この部門名の一括置換機能を使うだけで、すべての部門名が一瞬で新名称に置き換わります。

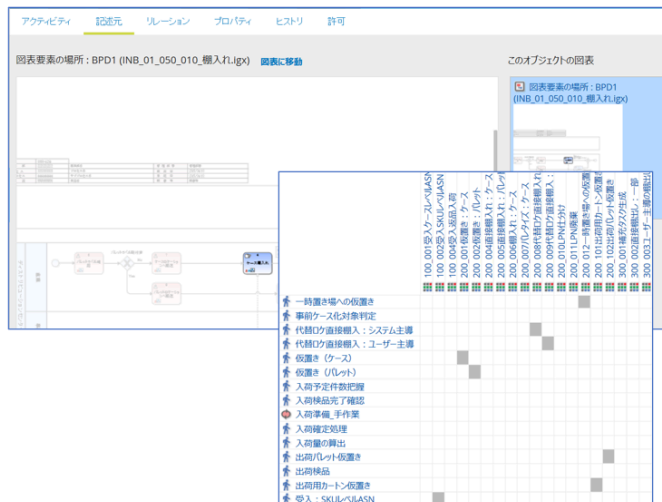
- ✓ 毎年のように発生する組織変更、部門名変更
- ✓ 部門名もデータベースで管理
- ✓ 部門名の変更も一瞬で完了



システムの利用状況を把握

企業オブジェクト機能を利用して、利用されているシステムをオブジェクトとして管理。業務フローと紐づけることで、どのプロセスでシステムが利用されているのか、どの部署でどのシステムが共同利用されているのかなどを把握することができます。現在普及してきたRPAのシナリオなどもマトリクスで管理・把握できます。

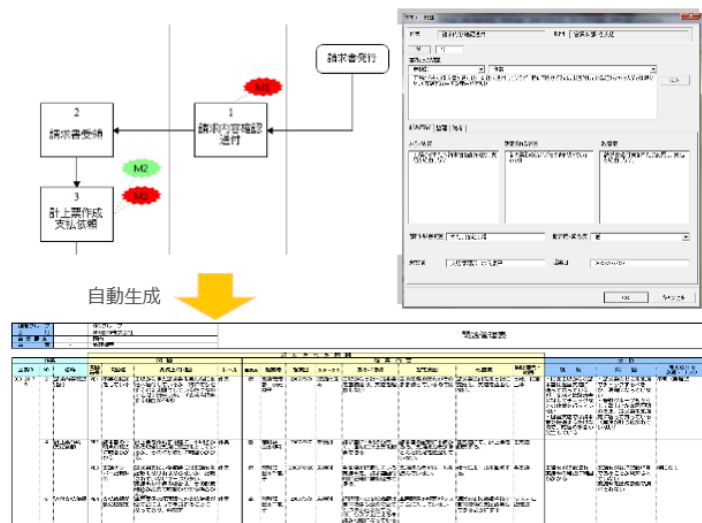
- ✓ システムの利用状況が一目瞭然に
- ✓ どのプロセス・部署で利用されているかもわかる
- ✓ RPAツールの各シナリオの利用状況も管理できる



業務改善の方法論を搭載

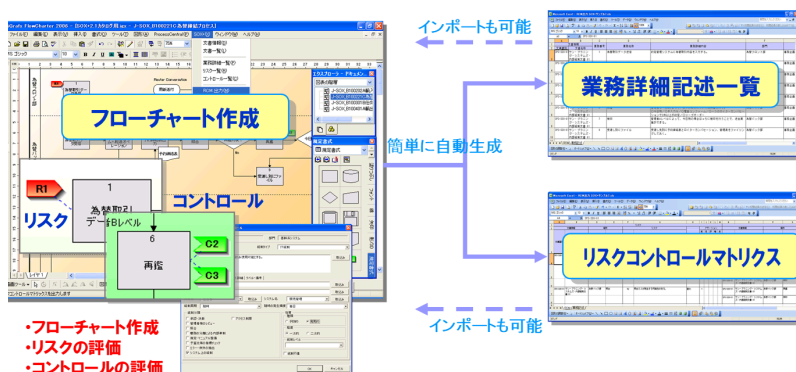
業務関わる問題について専用図形（問題図形）をフローチャート上に配置することで、業務プロセスのどこに問題が発生／残っているのか把握できるほか、図形内に問題の詳細情報を登録して、Excel形式の一覧表（問題管理表）に出力。業務改善のためのテンプレート帳票として、プロジェクトでそのままご利用いただけます。

- ✓ プロセスのどこに問題があるのか一目瞭然
- ✓ 問題点を集約したExcelの一覧表を出力
- ✓ 問題管理表として改善プロジェクトで活用



内部統制3点セット自動生成

業務フロー上に内部統制に必要な情報を埋め込むことで、上場企業に求められる内部統制3点セット（業務記述書、RCM／リスクコントロールマトリクス）を自動生成することができます。データのインポートも可能でメンテナンスも楽に。オプションで整備評価、運用評価に必要なデータ管理、帳票生成機能も追加提供可能です。



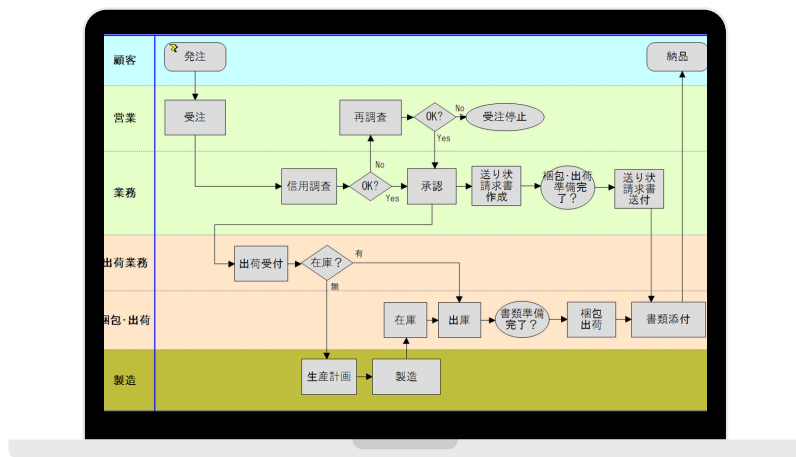
- ・フローチャート作成
- ・リスクの評価
- ・コントロールの評価

- ✓ 内部統制3点セットをかんたんに自動生成
- ✓ 出力した帳票からのデータインポートも可能
- ✓ 整備評価、運用評価用の支援オプションもご用意

業務シミュレーション分析

作図した業務プロセス上に実際に業務の粒（トランザクション）を流し込んで、どのように業務が行われるのかシミュレーションをすることができます。さらに、リソースの増減や業務プロセスの流れを変更することで、スループットやボトルネック、稼働率の変化を把握し、仮説検証しながらTo-Beフローの検討ができます。

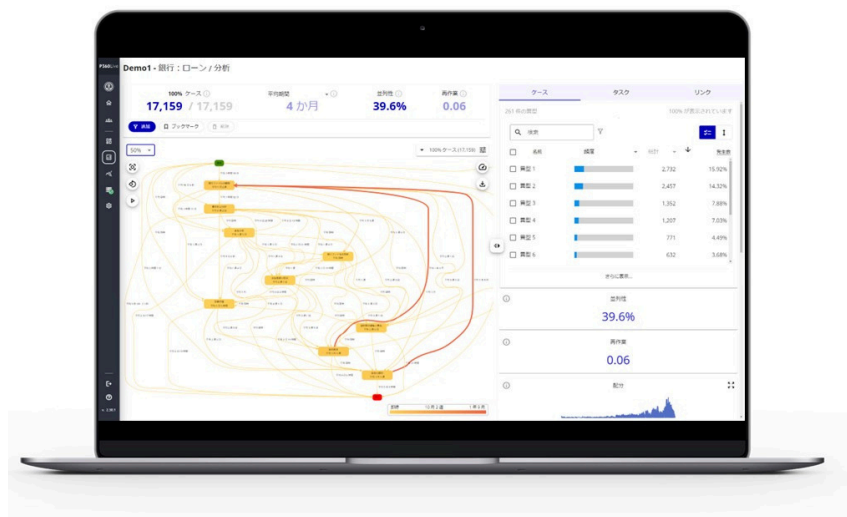
- ✓ さまざまな改善策を事前にシミュレーション
- ✓ 人員、作業時間、業務量など自由に変更可能
- ✓ 結果は複数の切り口で詳細レポートを出力



プロセスマイニング NEW

システムから収集したログをプロセスマイニングにかけることで、どのように業務が流れているのか、その割合やボトルネックとなっている箇所をリアルタイムで確認。想定していたプロセスの差異を把握できるので、実体に沿った効果的な業務改善やシステムの改修につなげることができます。

- ✓ システムログから自動的にプロセスを可視化
- ✓ 業務パターンやボトルネックを発見
- ✓ 想定と現実のギャップを分析できる





さらにメニューをご用意しております

お申込フォーム

(こちらをクリック)



- 資料請求
- 見積請求
- オンラインデモ
- 貴社社内説明会 (ご訪問)
- 無料相談
- 試使用環境／評価版

ABOUT US

業務可視化・改善分野で25年超の実績。
大変多くのお客様からのご支持を
いただいております。

SPS 株式会社サン・プランニング・システムズ

(東証プライム エクシオグループ株式会社 100%出資)

【創立】1980年1月14日 【代表者】代表取締役社長 風 正樹

【資本金】2億円 【従業員数】150名(2024年3月31日現在)



本社ビル（東京都港区三田）

業務可視化・DXのご相談

“ご相談受付中” お気軽にご相談ください

[会社名] 株式会社サン・プランニング・システムズ

[本 社] 東京都港区三田3丁目5-27

住友不動産三田ツインビル西館7階

[連絡先] mk@sunplanning.co.jp